
日本人間関係学会ニュース 第92号 発行日:2018.3.22

News No.92 Japan Association of Human Relations March 22, 2018

発行：日本人間関係学会 広報委員会 E-mail: tanikawa@kusw.ac.jp 関西福祉大学 谷川和昭研究室
事務局：〒333-0831 埼玉県川口市木曾呂 1510 番地 埼玉学園大学人間学部心理学科 杉山雅宏研究室
FAX:04-7122-1560 E-mail:jahrjimukyoku@gmail.com

[内容] ☆大会委員長挨拶 ☆全国大会特集 ☆台湾大会特集 ☆人間関係学探訪 ☆事務局日より

《大会委員長挨拶》

第25回全国大会を振り返って

大会委員長 勅使河原 隆行
(千葉商科大学准教授)



日本人間関係学会第25回大会は、千葉縣市川市の千葉商科大学にて開催されました。今大会では千葉で沢山の方々とお会いできましたこと本当に感謝いたします。

今回の全国大会では、いくつか新しい試みを取り入れました。第1に、ポスター発表の実施です。これまでの研究発表や実践報告は口頭での発表のみであったため、限られた時間の中では、どちらかというとな発表者が一方的に話をしていることが多く、他の参加者との議論をする機会があまりありませんでした。

その点、ポスター発表では、より多くの方とご自身の研究成果に関して議論をしていただける場の提供につながったのではないかと思います。

第2に、台湾の国立中正大学の呉啓新先生をお招きして、国際学術交流を開催いたしました。台湾では人口に占める65歳以上の割合が21%以上のいわゆる「超高齢社会」が間もなく訪れ、

同時に少子化問題も進行しており、日本が経験してきたことが台湾でも起こる見込みです。労働人口も減り、働く環境にも変化が生まれ、人間関係にも影響してきます。日本と台湾は共通点も多いですので、呉啓新先生と一緒に様々な議論が出来て良かったと思っています。そしてこのご縁をきっかけにして、今後は台湾でも学会開催することを実現することになりました。

そして第3に、情報交換会(懇親会)を学内で実施し、メニューに関しても単なるケータリ

ングではなく、学生が考案した復興支援メニューなどの提供をさせていただくことができました。懇親会も、広い意味で人間関係に関することだと思っ



ておりましたので、参加された皆様とお目にかかれたことは楽しく、貴重な時間を共有させていただきました。

以上、甚だ簡単ではございますが大会を盛り上げていただきありがとうございました。これからは多様性に寛容な社会を目指していくことを大切にしたいと考えます。

全国大会特集 2017.11.17-18.

日本人間関係学会 第25回全国大会の初日、ドリームフィールド鈴木満氏（本学会理事）のアイスブレイクを皮切りに千葉商大の勅使河原隆行大会長の講演「多様性に寛容な社会を目指して～人間関係力の向上のために～」が開始、次いで同大人間社会学部長朝比奈剛氏の基調講演「アクティブラーニングを通じた人間関係」が行われた。



基調講演で語る朝比奈剛氏



説明をされる勅使河原隆行先生

勅使河原軍団からのおもてなしとして、小林牧場の山武和牛ソーセージと焼肉を振舞われたが、できたてほやほや、熱々の料理に参加者誰もが舌鼓を打っていた。また、相馬田んぼアートとのコラボによる地ビール3種類は



勅使河原ゼミ縁のオリジナルビール

昼休みを挟んで、小山望理事長、杉山雅宏副理事長、鈴木満理事、谷川和昭常任理事の各ワークショップ、総会、情報交換会が実施され、終始和やかなムードの中、初日が終了した。

情報交換会には翌日の国際学術交流の前打合せも兼ね、台湾から吳啟新国立中正大学副教授らも駆けつけた。そして、特筆すべきは学生スタッフの勅使河原軍団（ゼミ生）のテキパキした笑顔のおもてなしである。参加者一同は感謝の思いとなる。



山武和牛の焼き肉とソーセージ

コクのある絶妙な味わい深い一品だった。お酒好きをうならせる素晴らしいテイストを醸し出していたことも書き添えたい。なお、千葉商大特製のおでんが大会手提げのなかに入っているサプライズ。参加者は大会後に食されたと思うが、出汁が効いた絶品であった。

大会2日目は、国際学術交流として、台湾より国立中正大学 労働関係 副教授の吳啟新氏をお招きし、「同一労働同一賃金から考える人間関係」と題するご講演と意見交換、質疑応答が行われた。

2018年2月23-24日には、台湾において日本人間関係学会との国際学術研究会が開催されるとのことで、本学会の歓迎ムードも最高潮に達した。



吳啟新氏(右) 陳宜君氏(通訳)(左)



吳啟新氏(左から2番目)、小山理事長、勅使河原大会長

吳教授には小山望理理事長より本学会からの感謝状が贈られた。

招聘の任に当たった大会長の勅使河原隆行先生と通訳の陳宜君氏(ジンさん)に感謝を込めて御礼を申し上げたい。また、勅使河原先生におかれては、空港への出迎え等も含め、通常の大会運営業務以上の時間と労力がかかっていたことは想像に難くない。

この2日目は自主シンポジウムが2題、研究・実践・ポスター発表が合わせ30題近く

あり、本当に活発な議論が繰り広げられた。多くの学び得たことを、今からこれからの人間関係に役立てたいものである。

25回目の学会はとりわけ記憶と記録に残る大会となった。そして、次回の大会は仙台の東北医科薬科大学にそのタスキを受け継いでゆく。



出迎いのプラカード(空港にて)

台湾大会特集 2018.2.23-24

台湾大会最初の集合記念撮影



2018年2月23日を皮切りに、国立中正大学社会科学院会議場において、「社会的弱者に対する就業や復興に向けての地域社会づくり」をテーマとする国立中正大学社会企業研究センター国際学術会議が日本人間関係学会との共同で開催された。

共催を示す垂れ幕



初日23日は6つの演題が、最終日24日には4つの演題が設けられた。前夜と会議の間には副学長室への表敬訪問、エクスカージョンも採り入れられ、両国における研究者・実践家のさらなる親交が結ばれた。



発表の様子①

この国際大会の実現に向けて労をとって下さった台湾側大会事務局の吳啟新先生、日本側大会事務局の勅使河原隆行先生、そして、中正大学卒業生や学生スタッフの皆様へ感謝を申し上げたい。

なかでも、バックステージを支えてくださった陳宜君氏（ジンさん）の献身的な翻訳作業と通訳等、そして翁譽真氏（ヨヨさん）の配慮の行き届いた調整や通訳等は忘れられない。今大会の成功に彼女たちの力は欠かせなかった。



大会前夜にハイパーマーケットにて

日本側の参加者は8名で、初めての海外での交流

発表の様子②



ということもあり、役員の中から参加を募集したメンバーであった。23日発表の杉山雅宏会員、谷川和昭会員、河合高鋭会員、24日発表の小山望会員、早坂三郎会員、勅使河原隆行会員、そして若杉博雄会員、内城喜貴会員である。

大会では、テーマに絡めた次のやりとりが印象に残った。「さまざまな存在と存在の相互作用が大切であるが、背景の

異なる人と人とがより良い相互作用するには何が求められるか」という台湾側の質問に対して、理事の河合会員が、こう答えた。「多様な社会を目指す際には必ずジレンマがあるけれども、それに対してそのジレンマを放置せず対話をするのが大切である。そのためにも研鑽が求められるし、プログラムもセットして考えていく必要がある」。

以下に、体験記を小山先生、早坂先生、若杉先生より寄稿いただいたので紹介させていただくこととしたい。

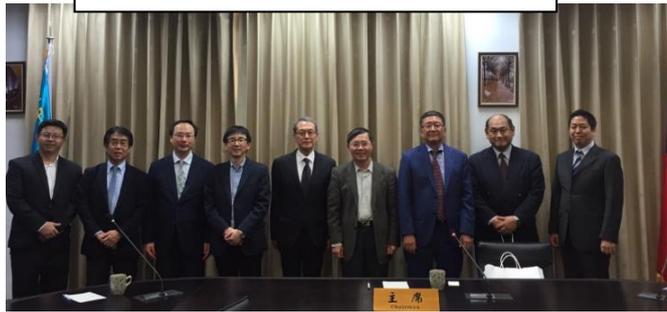


発表の様子③

「台湾での研究交流についての感想」

台湾の中正大学で開かれた本学会と中正大学との研究交流を目的とした研究大会は、多様性に寛容な社会を目指す本学会と社会的弱者を雇用した社会的企業を推進していくための研究している中正大学労働関係学部とは、ともに共生社会をめざすということでは共通理解の基盤があり、大変有意義な研究交流となりました。橋渡しをしてくれた千葉商科大学の勅使河原先生、中正大学の呉先生には感謝申し上げます。今後も継続して交流を続けたいと思っています。

23日、昼食後に副学長室にて



(小山望)



総出での歓待を受けて

「大会に出席して」

大学のある嘉義市は、パイナップルのお菓子で有名なようにとても温暖な気候で、国立嘉義大学は広大な面積にゆったりとした佇まいの学舎が威容を誇っていました。また、呉啓新先生をはじめとして関係の先生並びに院生や学生の皆さんたちは、皆さん日本のおもてなしを上回る気配りの人たちばかりでした。そんな中で発表できる機会をお創り頂きました勅使河原先生に心から御礼申し上げる次第です。

(早坂三郎)

副学長との名刺交換



「台湾大会参加体験記」

発表・傍聴の合間に中正大学副校長と1時間ほど情報交換の機会があり、当大学が労働法や高齢化などの研究基地となっていること、その中でも高齢化問題は、まだ高齢化率 18%程度ではあるものの喫緊の問題であり、すでに高齢化社会の日本からは学ぶことが多いとお話でした。

先生方や学生の皆さんと触れ合う機会が多々あり、話をしてみると言葉の違いはあるものの、まるで日本

人と接しているかのように考え方、フィードバックが似ていて、私たちに対して友好的かつ好意的に接していただきました。また、英語の通じる国と聞いていましたが、特に若い方々にはかなり浸透していることを実感しました。

(若杉博雄)

なお、当日のプログラム・発表要旨集の全文(145頁)が右のQRコードよりダウンロードいただけます。



會議手冊全文下載
要旨集全文ダウンロード
Download for the Full Conference Manual



人間関係学探訪シリーズ⑧

日本人間関係学会は教育・医療・心理・福祉など研究者だけの集まりでなく、人間関係に関心のある企業人、学生、市民など多種多様な会員が集まっています。そうした会員のお一人おひとりにスポットを当てて、Q&A形式で、その実践やお人柄、人間関係への想いを語っていただき、人間関係学の探究に何らかの示唆を得ることが本シリーズの意図・ねらいです。シリーズ第8回では、機関誌編集委員長を歴任された加藤誠之先生に語っていただきました。

加藤誠之氏（高知大学教育学部准教授）

1968年生まれ。東京大学教育学部、同大学大学院を経て法務省に入省。法務教官、保護観察官等として勤務した後、現任校（高知大学教育学部）に赴任。現在、高知大学で生徒指導論、高知県立大学で更生保護論を担当している。



2017年光岳（てかりだけ）



2014年幌尻岳（ぼろしりだけ）

谷川（広報委員会）：こんにちは。加藤誠之先生。本日はよろしくお願ひいたします。

加藤：こちらこそよろしくお願ひいたします。

谷川：お目にかかるのは、昨年（2017）11月に開催された第25回全国大会以来ですね。

加藤：千葉大会から、アツという間になりますね。

谷川：2～3ヶ月は確かに早いです。加藤先生は千葉商大で私がファシリテーターを務めたワークショップにご参加くださり嬉しく思いました。ありがとうございます。懐メロ談義も混ざりまして楽しい一時を共有できました。

加藤：谷川先生の該博な御知識には感服しました。六神合体ゴッドマーズは懐かしかったです。

谷川：恐縮です。1980年代初めに女性ファンの署名で映画化もされています。と申しましても、今の特に若い世代には分からないですね（笑）。それにしても、ここ高知県は暖かい地域ですね。

加藤：高知県に来てよかったことの一つは、毎日

ふんだんに太陽の光を浴びられることです。精神的にも健康になります。

谷川：その光のなかで、美味しいものもたくさん。太陽の恵みは、文旦、ぽんかん、イチゴなども瑞々しくジューシーにしれくれますよね。新鮮さがあるて羨ましいです。ところで、関西地区研究会にも加藤先生は高知から大阪・京都に定期的にお越しになられています。ご登壇される担当回では、会場に、いわゆる先生のお話目当てで、ファンのような方々もいらっしゃいます。実際、私自身も先生のお話にはいつも触発される場所多です。

加藤：恐れ入ります。大学でも、非行・犯罪系の講義は人気があります。

谷川：関西地区会だけでなく、大学の授業においてもお目当ての学生さんが多い。ご指導されてる大学院生さんもそうかと。では次の質問。先生のご趣味は何でしょう。確か登山に、お料理に…。

加藤：高校時代から登山一筋です。昨年は南アル

プス南端の百名山・光岳（てかりだけ）に登ってきました。料理は趣味と言うよりも、妻も中学校教諭として働いているので、家事分担の一端です。谷川：山登りを継続的・持続的になされているのですね。先生の教育研究姿勢に通ずるものを観じます。また、お料理はてっきりご趣味であろうと思いついていたようで、まさか役割分担でしたとは（笑）。それでは次のご質問です。学会に入会してどのくらいになりますでしょうか。

加藤：学会には1996年ころ、大学院生のときに入ったと記憶しております。

谷川：学会歴が20年以上になりますね。この間、私も発表参加させていただきましたが、高知大学で全国大会の実行委員長も務められましたね。学会にご入会の動機は何だったのでしょうか。

加藤：当時は大学院生で、就職のために業績を作らなくてはならなかったため、私の論文を載せてくれる学会を探していました。幸い、日本人間関係学会は理解があり、私の論文をよく載せてくれたので、現在までおつきあいが続いております。

谷川：運命的な出会いと言えますね。出会いと言えば、加藤先生と私が初めて出会いましたのを覚えておいてますでしょうか。第17回大会（於：文教大学、大会長：佐藤啓子先生）の時です。急に雨が降り出して、傘に入れていただきたいと…。

加藤：すごく懐かしいですね。覚えてますよ。先生はその大会が初参加でご縁を感じました。

谷川：ところで、加藤先生は学生さんを引率されて現場に出かけられています。単に机上の講義だけでなく取り組みが魅力です。その辺りについて少しお話をいただけませんか。

加藤：非行少年・犯罪者の処遇は、多くの学生さんにとって未知の世界です。少しでも具体的なイメージを持てるよう、刑務所・少年院・少年鑑別所の見学を行っております。

谷川：字面や写真、映像では分からないところが分かりますね。これまで構築されたネットワークをしっかりと活かされておられます。本務校のみならず非常勤先の学生さんも参加されています。

加藤：現在、非常勤先の高知県立大学で、福祉職を志す学生さん向けに更生保護論を担当しており、高知刑務所の見学を行っております。矯正施設の福祉職とはどんな仕事かイメージする手がかりになっていると思います。

谷川：刑務所も社会福祉士、精神保健福祉士といった国家資格専門職の職域です。学生にとって、

将来の進路を考える手がかりになると言えます。さて、先生は学会の機関誌編集委員長の役割を果たしてられました。ところが最近、編集委員長交代を申し出られたとうかがっています。何かご事情があったのか。お差し支えなければ教えていただけませんか。

加藤：機関誌編集委員長をお引き受けして6年になりました。学会の役職を特定の人が余り長く続けるのは好ましくないと考えました。他の学会でも、定期的に交代するのが通例のようです。

谷川：そうなのですね。機関誌は「学会の顔」とも言われます。私が申し上げるのもなんですが、6年もの間、大役を果たしてくださり本当にありがとうございました。なかなか言えないご苦労もさぞおありではなかつたらうかかと思えます。ところで、本学会には人間関係士という資格があり、人間関係力を打ち出しています。7つありますが、大事になさっている順番に並べ替えるとうなりますか。

加藤：①他者受容・共感力、②自己受容力、③連携・協働力、④媒介力、⑤全体認識・洞察力、⑥全体認識・洞察力、⑦回復・調整・再生力でしょうか。

谷川：並び替えてみられてどうでしたか。ご感想をお願いします。

加藤：どの力も大事ですが、すべての根本にあるのは自分と違う他者を受容し、共感できる力だと思います。私自身の講義でも、生徒指導の基礎にあるのは生徒理解であることを常々強調しております。

谷川：相手があるがまま受け止めて、共に在る時間をつくることで前進できる可能性も開けてくるのでしょうか。では、最後にもう1つだけ。人間関係、こうすれば良くなりますよという何か提言なり提案はございませんか。

加藤：自分と違う他者を受容し、共感するために必要な能力は聞く能力です。特に若い方は、今のうちに様々な本を読み、様々な人と出会い、知見を深めていって欲しいと思います。

谷川：耳と心を傾けるということですね。自分や自分達のことばかり夢中になり、それができない若者に時折出会います。傾聴力と読み替えても良いのかもしれませんが。本当はもっといろいろお聞きしたかったのですが時間が来ました。今日は貴重なお話をどうもありがとうございました。

（インタビュー：2018年1月24日）

《事務局便り》

1. 会員の動向

<2017年9月1日～2018年2月9日現在>

新入会員 正会員8名・一般会員4名・準会員1名 計13名

正会員：八重樫幸雄・山内あやり・福田聖子・石本真紀・広田佳与子・益川優子・山口雄士・塚本佳子

一般会員：田中敦子・吉川なつこ・佐久間仁美・山口景子

準会員：伊藤布佐子

退会員 正会員5名・準会員2名 計7名

正会員：小峯久子・斎藤緑・志濃原亜美・川瀬洋子・上野栄一

準会員：金田佳宏・大江宮子

総計 235名

内訳：正会員187名・一般会員20名・準会員26名・賛助会員2名

※2017年度より正会員から一般会員に移行 14名

※2017年度より準会員から一般会員に移行 2名

2. 理事による理事長互選選挙について

平成30年3月17日（土）の臨時総会に先立ち、理事による理事長互選選挙が郵送法による投票で行われました。開票は臨時総会開催前、13時5分より越谷市中央市民会館第7会議室にて行われました。

【開票結果】（投票総数28、無効1、棄権1）

永野典詞21票、小山望氏5票、勅使河原隆行氏2票となり、永野典詞氏が新理事長に選出されました（平成30年3月17日付け）。

3. 臨時総会について

平成30年3月17日（土）に越谷市中央市民会館において臨時総会が開催されました。今回の理事会議題は1) 2016年度収支決算報告修正、2) 人間関係士資格、3) 理事長互選選挙の結果についての3点でした。

1) については、事務局の引き継ぎの不手際により、会計報告の修正を余儀なくされ、会員各位にお詫びをさせていただきました。また、2) についても、未だ資格更新者への認定証が発行されていない不手際をお詫びし、今後資格認定事務局の体制を整え、会員への信頼回復に努めることを約束させていただきました。

今回は、急な開催にも関わらず、全国から26名の会員の皆様が参加してくださいました。

（事務局長：杉山雅宏）

（編集後記）

今号の編集は意外にも悪戦苦闘の難産で、編集に何日もかかりました。研究室ではWord2010、プライベートではWord2016を使っているのですが、どうしてか今回はレイアウトが崩れやすく、互換があまり効かなかったがために、何度も編集をし直すことが続きました。そうした中、前回、事務局よりメール配信された第91号の英字部分がNo.90になっていることに気づきました。大変申し訳ございませんでした。この場を借りてお詫び申し上げます。なお、HP上のバックナンバーは訂正・更新済みであることも、ご報告いたします。（谷川和昭）